

令和4年度 第1回健やかほうふ21計画(第二次)推進員会会議録要旨(案)

1 日時	令和4年7月21日(木) 午後2時から午後3時30分
2 場所	防府市保健センター
3 出席者	<p>【委員】 横田委員、山本(一)委員、深野委員、椎木(康)委員、椎木(幸)委員、松田委員、長尾委員、入江委員、山本(憲)委員、清水委員、藤村委員、久門委員、松野委員、肥田委員、古谷委員、長岡委員、海上委員、大本委員、相本委員</p> <p>※欠席：田中委員、島田委員、末廣委員、升田委員 (事務局) 藤井健康福祉部長、秋重健康増進課長、原田技術補佐、渡邊係長、永谷、渡邊、山野、吉村、白石、大藤、坂本</p>
4 傍聴者	0名
5 議題	(1) 庁内各課の令和3年度の取組状況について (2) 計画推進のポイントからみえた取組について (3) 意見交換 (4) その他

事前配布資料の確認

次第「1 開会」「3 閉会」は記載省略

2 議事

(1) 庁内各課の令和3年度の取組状況について

<事務局説明>

庁内各課の令和3年度の取組状況について説明(資料1)

<質疑応答>

【A委員】

文化・スポーツ課のニュースポーツ大会は、防府市スポーツ推進委員連絡協議会が主催で行っている。スポーツ推進委員には、スポーツを推進し、活発な活動が求められている。ニュースポーツ大会はスポーツ推進委員により実施されているが、地域に広めるといふ活動にはつながっていない。地域に広められるようなスポーツ推進委員に、協議会全体のレベルアップを期待したいと思う。

【事務局】

地域に広めていけると、より健康づくりにもスポーツの推進にもつながると思う。担当課にご意見を伝えていく。

【B委員】

スポーツ推進委員をして7、8年目になり、やっと自分がやらなければいけないことを理解し、こういう場にも来させていただいている。

ご意見をいただいた点に私自身も問題があると思っているため、今後の会議で自分からスポーツ推進委員に伝えたいと思う。

(2) 計画推進のポイントからみえた取組について

<事務局説明>

計画推進のポイントからみえた取組について説明（資料2）

<質疑応答>

【C委員】

この計画の基本理念にある「みんなでつながり思いやる」という活動は、自治会活動が大きなウエイトを占めていると思う。自治会活動では子どもから高齢者まで、見守りや様々な活動を企画している。閉じこもりを防ぎ、できるだけ外に出てきてもらえるよう、仕掛けをしていくことで、地域の繋がりや思いやりができるのではと思う。少子高齢化、多死社会、家族分散社会などそのような中で助け合っていくため、自治会活動の力は大きいと思う。しかし自治会長のなり手がいないため、新任自治会長の教育や動機付け等、ぜひお願いしたいと思う。

【A委員】

自分も自治会長・自治会連合会長をやっているが、やはり自治会だけではどうにもならないような時代になっている。みんなで見守り、安心安全な地域を作るため、自治会だけでなく、各協議会が共同してやらなければ解決できない問題ではないかと思う。また検討していきたいと思う。

【議長】

難しいところはあると思うが、思いは一緒とを感じる。知恵を出し合って、解決できていければと思う。

(3) 意見交換

【議長】

今までの事務局からの説明についての提案、また、今後の各団体の取組についてご意見をお願いしたい。

【D委員】

コロナ禍にあって、絶えず警戒感と緊張感を持って、子ども達の園生活のリズムを失わないように、保護者や教職員、そして地域の方と、つながりをしっかり

支えにして、進めていきたいと思う。

子どものみならず、その親がコロナ陽性になった場合、人権の側面から配慮して対応することがとても大事なことと思う。子育て支援課、学校教育課、教育委員会といち早く連携しながら、状況を把握して、迅速適正に自分達ができる範囲のことを一生懸命頑張っていきたいと考えている。

【議長】

コロナは珍しい病気ではなく、感染対策に気をつけていても罹ってしまう病気のため、今のことは念頭に置かなければいけないと思う。

【E委員】

各年代について、健康課題は少しずつ違うと思うが、子どもの頃から正しい知識を持って自分の体を大切に作る行動や習慣を身につけることがとても大切だと感じている。その中で子どもの健康課題も社会の流れの中で変わってきているような気がする。今感じていることは、子どもの視力の低下である。1人1台学校でのタブレットや、家庭でのスマホやタブレットの使用が低年齢化してきて、使用する頻度とか時間も多くなっていると感じ、学校ではメディアコントロールデーや教室ゼロ運動の取組を行っている。今後も家庭と協力しながら、子どもの目の健康について考えていきたいと思っている。

【議長】

幼稚園児・小学生・中学生の健康は、コロナの影響がどのように出るか、もう少し経って見ないと検証できないかもしれないが、今のままだと、いい方向にはいかないと感じる。若い世代の心と体の健康は、これからも深刻にならないよう、皆さんの知恵を出し合っていたいただきたいと思う。

【F委員】

昨年は、市広報に歯科検診の勧めが掲載され、実際に歯科検診を受ける方も増えている実感はある。歯科医院のイメージも痛くなったら行くところから、早めのうちから今後長く歯が使えるように定期的にクリーニングしてもらう所へと変化しており、心がける方が増えていると感じている。

「定期検診を受けましょう」というところは大方クリアできていると感じているため、次の段階として、早期治療に目標を持ってほしいと思う。

今年度、小学校の新入学生に新しく歯ブラシを配るなど、口の中の啓発活動に重点を置き始めた。また来年度も続けていきたいと思う。また新たに歯科医師会のできることをあればまた考えて実行していきたいと考えている。

【議長】

いくら美味しいものでも歯が悪いと美味しく食べられない。もっと真剣に考えないといけないことと感じた。

【G委員】

やまぐち健幸アプリについて、防府は人口が約11万5000人の内の約4070人が参加している。この健幸アプリを利用し、例えば、ウォーキングによってこの健康マイレージを活用できるような仕組みを作るとよいと思う。ポイントを市の商店街で利用できるなど、防府市独自にこの事業を発展的に活用できるのではと思う。

また、障害福祉課の障害者スポーツと文化スポーツ課のスポーツ大会について、ぜひ障害を持たれた方と健康な方が一緒にスポーツを楽しめる機会があると、共生といった意味では、大変発展的な取組になるのではと思う。学校現場でも地域教育ネットで学校を核にした地域づくり、地域を核にした学校づくりを始めている。そのような場でも障害者スポーツや健常スポーツを上手く取り入れ、子どもと大人と地域の方と、健常者と障害を持たれた方が一緒になってできるスポーツを探っていけるのではと思う。

【議長】

やまぐち健幸アプリは、他市では市同士が競争し、市民が盛り上がっていたと思う。防府市も地区同士で実施するなどよいのではないか。

障害者スポーツについて、健常者の福祉や体験学習にもなり、視野を広げるアイディアとしてよいと思う。

【H委員】

コロナ禍で活動が難しい中、食べることはできないが、公民館で調理実習し持ち帰るという活動や高齢者学級などの人を集め、講話や持ち帰り用のお弁当を作って差し上げる活動も実施した。親子料理教室も人数制限がある中、少人数で実施した。食育の取組を少しずつできる範囲で実施していきたいと思うが、思うようにはできていないと感じる。

【議長】

コロナ禍で随分制約がある。朝食のことやバランスのよい食事など、今後も継続していただけたらと思う。

6月から12月ががん検診期間だが、出足が悪く、今年も受診率がよくない。

医療機関はコロナ対応と検診の両方というのは難しいところもある。病気はコロナだけではないため、みなさんの健康という意味では、がん検診も取組んでいきたいと思う。

【I 委員】

コロナ禍で制限がある中、市内50か所程の通いの場の支援として、高齢者の運動支援などを中心に行っている。

運動は、日々の生活の中で実践できることもある。活動量という考え方では、散歩は3メッツという単位で表される。それは、日常生活の動作の中でいうと、掃除機をかける活動も3メッツとなる。そう考えると、コロナで外で活動できなくても、家でできることもたくさんある。

例えば高齢者が今まで外に出て活動していた、集まっていた、それができなくなったとしても、家での草取りや、買い物の回数を週1回から週3回するだけでも、フレイルやサルコペニアなどを防ぐことができる。趣味活動など、例えば座ってする縫い物も、買い物に行くことが絶対必要である。道具を買いに行くと思うと外出の機会になる。

そういう観点から考えると健康に繋がる活動はたくさんある。その活動を子ども達と一緒にするとより良いと思う。

【議長】

コロナで体力が低下している。熱中症に気を付けながら、身体を意識して動かさないといけないと思う。

【J 委員】

今回の事務局の資料には、各年代の地域と行政の取組が示されており、計画とそれぞれ地域で実施することのつながりが示されていた。委員の皆様もそれぞれの立場や組織から代表としてご参加いただいているため、自分の立場や組織はここだなと把握できたと思う。私達が地域や所属する組織に伝えるのに、この資料を活用していただけたらと思う。

この計画は10年の計画で、折り返し地点をすぎている。この10年間にはずいぶん社会状況も変わっている。この計画の大きな目指すところはかわらないが、具体的な取組については、状況の変化に応じて、委員の皆様と意見交換しながら微調整し、次の取組を考えることが必要と思う。委員の皆様の意見が、時代や生活の変化を知る貴重や情報源になっていると改めて思う。

ご意見にあった、自治会や組織の人材不足について、それを補うには連携だと、地域で活動する中で実感している。連携には知識や情報を共有することも大事

だが、一緒にやっという気持ちやチームワークも次の動きにつながる原動力になるため、ぜひこの推進委員会をそういう場にしてほしいと思う。

以上により議事終了

【事務局】

今後も、今日お示しした健康づくりの課題や各団体の取組等について、各委員の団体で話題提供し、地域で周囲に伝えていくことで、防府市が「みんなでつながり思いやる健やかなまち」になると思う。